

第4章 協働プロジェクト

環境問題に取り組むためには、環境保全活動への関心や参加意欲の向上、環境保全活動を担う人材や組織の発掘・育成などが求められます。こうしたことから、第2次環境基本計画の中で市民・事業者と市が協働して取り組む「協働プロジェクト」を位置づけています。

「望ましい環境像」実現に向けて協働プロジェクトを推進することにより、環境問題への関心の拡大、環境活動への参加拡大、地域コミュニティの活性化、町会・自治会と環境保全活動団体の連携拡大を図ります。

協働プロジェクトの評価は、市で把握できる市民・事業者との協働による活動実績（評価指標として参加者数、活動箇所数や参加世帯数など）および活動状況などについて把握し、5つのプロジェクトごとに結果をとりまとめ評価します。

第1節 里山復活プロジェクト

私たちの生活の源である里山・谷戸や身近な斜面緑地など、貴重なみどりの機能を回復することが重要です。地下水かん養や生物多様性の保全など、みどりや水辺の持つ多面的機能の回復をめざします。

	26 年度実績
評価指標	戸吹環境教育・学習拠点整備事業（活動箇所 0） 「上川の里」特別緑地保全地区整備（活動箇所 1、参加者 500 人） 川口川上流域谷戸と水路の生きものプロジェクト（参加者 21 人） 公園アドプト制度（活動箇所 13、参加者 1,262 人）

基本施策の評価： ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

里山復活プロジェクトに該当すると考えられる事業が環境政策課、環境保全課、水環境整備課の3所管において行われている。いずれも協働の形態は事業協力であり、活動主体は、町会・自治会や環境保全活動団体となっている。活動の状況の進捗が、「上川の里」特別緑地保全地区整備と川口川上流域谷戸と水路の生きものプロジェクトでは環境教育・環境学習の場として活用している。

<今後の展開>

戸吹環境教育・学習拠点整備事業では、保全活動を行う人材を育成する。育成した人材の活用方法を検討する。

<環境推進会議での相互評価>

活動箇所の増加と参加者数を増やすために、里山を環境教育・環境学習の場として活用し、育成された人材を活用するといった拡大していくプロジェクトを展開してほしい。

第2節 生ごみ資源化促進プロジェクト

「循環型都市八王子」の実現には、一層のごみの減量・資源化が重要です。生ごみの減量・資源化のため、地域の特性に応じた生ごみの地域循環を促進します。

	26 年度実績
評価指標	ダンボールコンポスト講習会（参加者 525 人）

基本施策の評価： ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

家庭へダンボールコンポストを普及するため、市民アドバイザーによる講習会をエコひろばで開催している。企画運営はNPO法人が行い、生ごみリサイクルリーダーの活用のもとになっている。市では各種イベントにて生ごみ資源化の手法としてダンボールコンポストの周知啓発を行い、ダンボールコンポスト購入に対して補助を行っている。

<今後の展開>

一部の講習会は他市のアドバイザーを依頼していたが、27年度は新たに中心となる市民アドバイザーの発掘・育成を行う。

<環境推進会議での相互評価>

ごみ処理基本計画での「10%の世帯が生ごみ資源化に取り組む」という目標を実現するため、啓発・周知を強力に進めていただきたい。

第3節 省エネ応援プロジェクト

地球温暖化を防止するためには、一人ひとりがCO₂排出量の削減に取り組んでいくことが重要です。家庭や職場、地域などで省エネ知識を高め、簡単に継続的に取り組める省エネ行動を応援します。

	26 年度実績
評価指標	家庭における省エネの推進（はちおうじ省エネ国の会員 3,044 世帯）

基本施策の評価： ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

勉強会を実施するなど、家庭の省エネアドバイザーの育成、支援に取り組むとともに、家庭の省エネアドバイザーを通じて、省エネに関する知識の普及啓発を図った。地球温暖化防止普及啓発イベントなどで、はちおうじ省エネ国の参加登録を募り、前年比6%増となった。

<今後の展開>

市全域でのCO₂排出量の削減を推進するため家庭の省エネアドバイザーの派遣を進める。はちおうじ省エネ国の参加を募ることにより継続的に省エネ活動を実施する世帯を増やす。

<環境推進会議での相互評価>

市内全域で省エネに取り組むために、町会・自治会を通じて活動の推進を図っていくことが必要と思われる。また継続的に省エネ活動を実施する世帯が増えるよう活動の展開をしっかりとっていただきたい。

第4節 環境教育サポートプロジェクト

環境問題を解決していくためには、一人ひとりが問題を認識・理解し、行動することが重要です。小・中学校における総合的な学習の時間などを活用し、学校での環境教育を支援します。

	26 年度実績
評価指標	環境教育支援事業（実施 22 校、授業を受けた児童・生徒 4,634 人） 浅川（水生生物採集）（授業を受けた児童・生徒 66 人） 浅川（水生生物採集・野鳥観察）（授業を受けた児童・生徒 134 人） 八王子浅川水辺の楽校（授業を受けた児童・生徒 490 人） 八王子市小学校科学教育センター事業（授業を受けた児童・生徒 125 人） 子育て応援企業登録制度（実施 9 社）

基本施策の評価： ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

児童・生徒を対象とした環境学習を 6 事業行っている。授業の実施は地域の人材を活用した事業となっている。

<今後の展開>

小・中学生に環境学習を行うことで環境意識の向上を図る。

<環境推進会議での相互評価>

小学生・中学生への環境教育は非常に重要な取組である。対象校の掘り起しなどの十分な働きかけなど行っていただきたい。

第5節 地域の環境美化プロジェクト

まちの美化を進めるためには、モラルやマナーを守り、都市の美観を保持することが重要です。市民・事業者が、清潔できれいな地域の環境づくりに取り組めるよう支援します。

	26 年度実績
評価指標	旧老人ホーム跡地美化（参加者 3,600 人） 慰霊塔清掃委託（参加者 145 人） 落書き消去活動（参加者約 178 人） 道路アドプト制度（参加者 1,426 人） 公園アドプト制度（参加者 18,990 人） 市民緑化支援事業（15 団体） 花づくり事業（参加者約 56 人）

基本施策の評価： ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

まちの美化をすすめるために 7 事業行っている。道路アドプト制度などは長期に活動を行っている団体があり、活動参加者数も前年比 2.1% 増となった。公園アドプト制度では新規登録の促進を、有志・個人に行うことで積極的に行っている。

<今後の展開>

全体的に活動参加者はあまり増減がない。市全域に活動をひろげる取組が必要。

<環境推進会議での相互評価>

アドプト活動を行う団体と場所を管理する指定管理者、市と連携を密にして活用しみどりの維持管理に努めていただきたい。